

義太夫

義太夫協会会報 第 116 号

令和 5 年 7 月 15 日

一般社団法人 義太夫協会 発行

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町3-1-6

日本橋永谷ビル210

Tel. 03 (6265) 1880

Fax. 03 (6265) 1881

<http://www.gidayu.or.jp>

鶴澤寛也さんのご逝去を悼んで

義太夫協会会長 原 道生

残念ながら、今回の本稿は、思いがけない鶴澤寛也さんのご逝去という、余りにも悲しい出来事をお伝えすることから始めなければなりません。

なお、この件につきましては、次頁以降にも、広報部よりの報告記事が載り、また、お嬢様のかおるさんからの寄稿もいただける由を伺っておりますので、以下の拙稿との間に重複が生じることもあろうかと思いますが、ご容赦いただければ幸いと存じます。

○ 私が生務局長の柴田さんから、「会長にはお伝えしておきます」とのお断り付きで、最近の寛也さんはご体調が思わしくないらしいとのお知らせを頂戴し、一驚いたしましたのは、本年の一月二五日のことでした。

それまでの私は、寛也さんといえば、ご自

身の演奏の際には元より、平素の立居振舞すべにおかれましても、常に背筋をきちんとしておられるものご健康で充実したご日常を送っていただけるものとばかり拝察いたしておりましたので、そのような彼女とご病人としての寛也さんという二つのイメージが、どうしても結び付けられなかったものでした。

けれども、後日、考え直してみたところ、本年一月十四日、国立小劇場での「邦楽名曲選II」の『本朝廿四孝』奥庭狐火の段に、ツレとしてご出演なされた折、失礼ながら、いつもの彼女とは違い、全体的に小ぶりになられた様子で、さすがに私も、どこかお加減がお悪いのではないかとお案じいたしましたことを思い出した次第です。

そして、その後、右の柴田さんよりの情報に接したことにより、恐らく、その日の彼女は、重篤化してゆくご病状に苦しみながらも、永らく、共に研鑽を重ねてこられたお仲間たちとの舞台を、心を込めて務めておられたら

しいことを知り、改めて深い感慨を覚えたこととでありました。

○ しかもその上、寛也さんは、その八日後の「女流義太夫演奏会」にもご出演になり、『碁太平記白石噺』浅草雷門の段を弾いておられます。今から思えば、さぞお辛かったことかと拝察されますが、ご自身、そんな気配は全くお見せになることなく、洒脱な芸の面白さを十分に楽しませて下さったものでした。

話は少々遡りますが、昨令和四年七月二五日に、早稲田大学演劇博物館主催の女流義太夫公演で演じられました竹本綾之助師匠と鶴澤寛也さんによる『妹背山婦女庭訓』金殿の段は、その魅力的な企画にふさわしく、お二人ともにすばらしい出来映えで、私ども観客を、女流義太夫の世界に見事に引き入れて下さったものでした。恐らく、この時の寛也さんを拝聴して、まさかこの方が半年近くの後にご他界になられるであろうとは、誰一人予想だにできなかったことではないでしょうか。この『金殿』も、右の『狐火』『雷門』と並んで、私にとっての、忘れられない彼女の最晩年に拝見・拝聴した一曲となっております。

○ なお、この会の折、彼女は、最後に手がけたいものとして『盛綱陣屋』をあげておられました。余りにも早すぎたご逝去によって、多くの無念さを残してしまわれた寛也さんのご胸中をお察しいたしつつ、ご冥福をお祈り申し上げる次第です。

合掌

〈目次〉

鶴澤寛也さんのご逝去を悼んで(原道生) : 1
 通常総会開催 : 2
 協会事務所・演奏会場移転
 新入正会員紹介
 豊竹呂太夫 文化庁長官表彰 : 3
 鶴澤津賀寿 ENEOS音楽賞受賞
 竹本葵太夫 大田区民栄誉賞受賞
 竹本越若 旭日双光章受章
 義太夫教室第七四〜七五期
 二月公演「メリヤス」解説 : 4
 第五二回邦楽演奏会
 鮎?寿司!?!鮎!!
 鶴澤津賀寿人間国宝認定記念演奏会
 計報 鶴澤寛也 : 5
 初代国立劇場さよなら公演 : 6
 女流義太夫の魅力「仮名手本忠臣蔵・七段目」
 協会・正会員の主な動き

通常総会開催

六月三十日(金)、ビジョンセンター日本橋別館において、通常総会が開催されました。当日は左記の議案が付議され、いずれも承認されました。

- 第一号議案：二〇二二年度事業報告
- 第二号議案：二〇二二年度決算報告
- 第三号議案：二〇二三年度事業計画
- 第四号議案：二〇二三年度収支予算

協会事務所・演奏会場移転

「お江戸日本橋亭」を一階に構える日本橋永谷ビルは、二〇二四年一月より建替工事に入る旨、オーナーの永谷商事株式会社より通達がありました。それに伴うお江戸日本橋亭の休館は二年以上、新ビルにも演芸場を開設予定であるものの詳細は未定とのことです。

本協会では、この数年、毎月の定期演奏会の多くをお江戸日本橋亭で開催し、また、同ビルの二階に協会事務所・義太夫節保存会事務所を構えております。よって、新たな演奏会場を探すとともに、事務所移転にかかる費用の調達が急務となっております。移転先の詳細は追ってお知らせいたします。なお本年度の演奏会場は左表の通りです。

令和5年度女流義太夫演奏会 公演予定

日時	会場	開演時間
7月17日(月・祝)	紀尾井小ホール	13時30分
8月20日(日)	お江戸日本橋亭	13時30分
9月20日(水)	お江戸日本橋亭	18時30分
10月13日(金)	お江戸日本橋亭	18時30分
11月20日(月)	お江戸日本橋亭	18時30分
12月17日(日)	紀尾井小ホール	13時30分
1月18日(木)	深川江戸資料館小劇場	18時30分
2月15日(木)	深川江戸資料館小劇場	18時30分
3月20日(水・祝)	紀尾井小ホール	13時30分

令和5年6月現在

新入正会員紹介 (令和五年四月一日付入会三名)

竹本住蝶 (たけもとすみちよう)



一九七八年、豊澤住造師に入門。一九七九年、初舞台。一九八一年・八九年・九二年、人形浄瑠璃因協会奨励賞受賞。一九九五年、「苜会」の一員として第十三回咲くやこの花賞受賞。二〇〇五年、鶴澤清介師の預かりとなる。二〇〇九年、重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者認定。

竹本早苗 (たけもとさなえ)



一九九九年、義太夫教室第一期修了。二〇〇〇年、竹本駒之助師に入門。二〇〇六、二〇一二年「デーモン閣下の邦楽維新」に出演。あつぎひがし座公演に継続的に出演。

私と義太夫の出会いは幼少期、祖父母と父の影響でした。最初は父の勧めで義太夫教室に通いました。稽古を続けることに感謝の気持ちを持ちを忘れず、少しでも上達していけるように日々精進して参りたいと思っています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(2023.7.15)

竹本希 (たけもと のぞみ)



二〇一一年、竹本駒之助師に入門。二〇一八年、あつぎひがし座人形浄瑠璃自主公演に出演。このたびは義太夫協会正会員に加えていただきありがとうございます。

竹本駒之助師匠の語りに魅了され、義太夫をもっと知りたいとの思いで入門いたしました。大変未熟ではありますが、一生懸命に学び、精進に努める所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

豊竹呂太夫 文化庁長官表彰

豊竹呂太夫が、令和四年度の文化庁長官表彰に選出されました。永年にわたり、人形浄瑠璃文楽太夫として活躍するとともに、後進の育成にも努め、重要無形文化財「人形浄瑠璃文楽」の保存・伝承に寄与し、我が国の文化財保護に多大な貢献をしている功績によるものです。



鶴澤津賀寿 ENEOS 音楽賞受賞



鶴澤津賀寿が第五二回 ENEOS 音楽賞(邦楽部門)を受賞し、昨年十二月に授賞式が行われました。

贈賞理由には、人間国宝・竹本駒之助の相三味線として多くの舞台をつとめ、近年は創作や多ジャンルとの活動にも取り組みなど、津賀寿の卓越した演奏と多面的な活動を評価し、今後も日本音楽に寄与することへの期待が述べられています。

竹本葵太夫 大田区民栄誉賞受賞



竹本葵太夫が、令和四年度大田区民栄誉賞を受賞しました。大田区在住の葵太夫は、歌舞伎音楽竹本の人間国宝認定、日本芸術院賞受賞など、

たゆまぬ研鑽に励み日本の伝統芸能を継承し、歌舞伎の義太夫節の振興に貢献、後進の育成に尽力する姿勢が称賛されての受賞となりました。

竹本越若 旭日双光章受章

令和五年春の叙勲において、竹本越若が旭日双光章を受章しました。越若は義太夫教室第二五期を終了し竹本越道に入門、昭和四八年初舞台、平成十二年重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者認定。近年は「法真寺で義太夫を聴く会」で大曲に挑むなど精力的に演奏活動や後進の指導に取り組んでいます。



義太夫教室第七四期〜七五期

義太夫教室第七四期は、語りコース竹本土佐恵・竹本越若、三味線コース鶴澤津賀寿各講師の指導のもと、三月十一日に卒業発表会を迎えました。コロナ禍で前年度は教室が中止となり、二年ぶりの卒業発表会、また、今まで何度もお世話になった会場のスペースFS汐留が営業終了のため、今回が最後の利用ということもあり、感慨深い会となりました。第七五期は五月十三日より入門コースが開始。義太夫節に関連する講義と、語り・三味線の実技が行われます。講師は、語り竹本越孝・竹本京之助、三味線が鶴澤津賀榮です。

(2023.7.15)

二月公演「メリヤス」解説

二月公演で解説をつとめさせていただきました。テーマは「メリヤス」。次のように進めていきます。

①メリヤスとは？

メリヤス編みの編み地を使っての説明。

②メリヤスの演奏形態三種、演奏とともに、三味線一挺のみ、細三味線が入るもの、複数の三味線のもの三種

③今日の演目の中のメリヤス

解説後に上演される演目の中のメリヤスの演奏形態とその効果。

さて、いつも掛け声をかけるぐらいしか発声しない三味線弾きがどれだけお話しできたものか：難しかったのは、演奏しながら説明したところ。息も絶え絶え、やっとのことでコメントを入れましたが、その甲斐あって拍手もいただきました。

解説が少しでも鑑賞の手助けになり、義太夫への興味が深くなっていくようなら有意義なことです。同時に私の中にも理解が深まったように思いました。

詳しい内容はまた機会がありましたら。

(鶴澤津賀榮)

第五二回邦楽演奏会

第五二回邦楽演奏会が三月二十五日、国立劇場小劇場にて開催されました。「別れ・再会 国立劇場大規模改修に寄せて」と銘打った現・

国立劇場での最後の公演。

第二部『芹屋道満大内鑑』葛の葉子別れの段に駒之助・津賀寿、第三部『新版歌祭文』野崎村の段に越孝・綾之助・寿々女・京之助・土佐子・駒治・三寿々・賀寿・津賀花・弥々が出演しました。

鮎？寿司!?!鮎!!

四月二十日、「鮎？寿司!?!鮎!!」と題した定期公演がお江戸日本橋亭で行われました。

ゲストに発酵デザイナー・小倉ヒラクさんをお迎えし、楽しいお話を伺った後、『義経千本桜 すしやの段』を京之助・駒治、越若・賀寿、土佐恵・三寿々の演奏でお聴き頂きました。小倉さんは全国の発酵食品を調査・紹介するユニークな活動を展開されています。数年前、渋谷・ヒカリエでの展示を拝見した後、『発酵食品と言えば鮎、『すしや』の演奏の前に小倉さんにお話をして頂いたら面白いのでは』と思いつき、下北沢にある小倉さんのお店「発酵デパートメント」に行ってみました。たまたまお店にいらした小倉さんにご相談してみるとご快諾くださり、実現の運びとなりました。

「鮎」と「鮎」の違いや、アジア諸国にある同様の発酵食品のお話に始まり、発酵の専門家として読んだ『すしや』の感想など、あっという間の十五分間。中でも、鮎桶に弥助の首と見せかけた小金吾の首を弥左衛門が入れるエピソードから、罪人の肉を塩漬けにして

親族に食べさせるという『封神演義』に出てくる話への連想は刺激的で、お客様がたの反応が舞台裏にいてもはっきり伝わってきました。(鶴澤賀寿)

鶴澤津賀寿人間国宝認定記念演奏会

令和五年五月七日、紀尾井小ホールにおいて、鶴澤津賀寿人間国宝認定記念の会が、満員のお客様のご来場を得て、華やかに開催されました。

演目は、『寿式三番叟』、『寿詞繭依絲(こ)とほぎてまゆのよりの』、『壺坂観音霊験記』山の段。全演目、望月太左衛社中のお囃子により、祝儀の雰囲気より盛り上げていただきました。

『寿詞繭依絲』は、今回のために企画された義太夫名曲集です。太夫九名、三味線四名、総勢十三名の出演も、高低差のある山台配置により可能となりました。当日は津賀寿の弟子の鶴澤津賀佳が、義太夫協会定期公演での初舞台を踏み、重ねておめでたいことでした。

(鶴澤弥々)



◆ 訃報 ◆

鶴澤寛也

当協会理事の鶴澤寛也が、本年三月三日に乳癌のため永眠しました。六二歳でした。

鶴澤寛八師匠に入門してから四十年。年々活躍の場を広げ、精力的に舞台を務める傍ら、当会の広報部長として、ネットを使う時代に沿った発信にも力を注ぎ、女流義太夫を広める事に尽力してくれました。闘病は公にせず、体調を崩し入院するまで、休まず舞台を務めました。

最期まで現役を貫いた、義太夫人生でした。

*

余りにも突然私たちの前から姿を消されたので、皆戸惑っております。未だ現実を受け入れる事が出来ず、深い悲しみの中にいます。いつまでも天の岩戸に隠れていないで、我々の前に姿を現して下さい——この切なる願いは寛也さんに届くでしょうか。

いつも輝いていた寛也さん。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌



母のこと

三月三日、我が家のお雛様を飾った部屋へ、母が静かに帰ってきました。昨秋から本格的な治療を始め、細く長く頑張ってきたと話していた矢先、二月に体調を崩してからはあっという間でした。急なことで皆様にはご心配、ご迷惑をお掛けいたしました。

母は「八重洲座」などのイベントを機に、今の時代、芸を磨くだけでは人は来ない、と広報活動にも力を入れるようになりました。組織や社交が得意ではなく、自身の売り込みというよりも女義のため。その積み重ねが、多くのご縁に繋がったように思います。

敬愛する作家の橋本治さんから「近代的な音」とご指摘を受け、それが義太夫の音楽性と相容れないことに悩んでいる時期もありました。その後は、その性質を受け入れたうえで、自らの道を模索し稽古に励んでおりました。まだまだ、これからの人でした。いちファンとしても残念でなりません。

そんな母ですが、人前で話す際にひと笑い取りたがるふしがありました。今日ウケたか否かの報告を何度聞いたことか。祖父の葬儀でも参列者を笑わせた母を思い出しつつ、私の笑いどころのない喪主挨拶を反省していた告別式。弔辞で清介師匠が「美人薄命って言いたいんでしょ？」と話しかけ、会場は泣き笑いでした。母も喜んだことでしょう。

私は素人ながら、この先も協会の公演のお手伝いでお世話になる機会があると思います。母共々、今後ともよろしくお願いいたします。

(鶴澤寛也長女 灰藤かおる)

鶴澤寛也 つるさわかんや

東京都出身

昭和五六年、義太夫協会主催義太夫教室(三四期)受講

昭和五九年、鶴澤寛八に入門 昭和六十年初舞台

平成五年、鶴澤雛代の預かり弟子となる

平成十九年、鶴澤清介の預かり弟子となる

平成二十年重要無形文化財「義太夫節」総合指定保持者認定

(一社)義太夫協会理事

平成六年義太夫協会新人奨励賞

平成十四年清栄会奨励賞

平成十七年第二回伝統文化ポラ賞奨励賞



入門直後、『万歳』で鶴澤寛八師匠のツレ弾き(右端が寛也)



石川さゆりさんのコンサートにも参加



親子でハロウィン



「第15回はなやぐらの会」にて竹本駒之助師匠と



橋本治さんの著書では表紙、対談も『義太夫を聴こう』橋本治(河出書房新社)

(写真提供: 灰藤かおる)

初代国立劇場さよなら公演

みせていただいたり、出させていただいたり、これまで大勢の人々がお世話になった、国立劇場さよなら公演なんて淋しいです。その上、我々の大事な三味線方の、鶴澤寛也さんとのラストステージになった訳で、忘れられない公演となってしまいました。稽古の時は、ショートカットをなびかせて一瞬えっと思いましたが、本番は一手加えて和風にまとめ、駒之助師匠から拝借した狐火の肩衣に見事に映え、さすがに美しい寛也さんでした。

私にとりましては、降って湧いた大役にとまどいましたが、津賀寿さん、寛也さん、お箏の高橋翠秋先生のお力添えをいただき緊張の中にも、つとめる事ができました。

外はあいにくつめたい雨でしたが、重圧感から解放され足どりは少し軽く国立劇場をあとにいたしました。(竹本綾之助)



「邦楽名曲選Ⅱ 鎌倉～安土桃山」
1月14日 国立劇場小劇場
『本朝廿四孝』奥庭狐火の段
浄瑠璃：竹本綾之助、三味線：鶴澤津賀寿
ツレ：鶴澤寛也、箏・胡弓：高橋翠秋
(写真左より、津賀寿・綾之助・翠秋・寛也)

NHK Eテレ『新・にっぽんの芸能』 女流義太夫の魅力「仮名手本忠臣蔵・七段目」

昨年十二月の紀尾井小ホール「仮名手本忠臣蔵」公演をきっかけに、二月に『新・にっぽんの芸能』へ出演させていただきました(由良助・駒之助、お軽・綾之助、平右衛門・越孝、三味線・津賀寿、細・津賀榮、弥々)。毎年十二月恒例の「忠臣蔵」公演で、幾度となく務めてきました「七段目」掛け合いです、中でも昭和四四年の本牧亭公演は特に記憶に残っています。(由良助・春駒、力弥・綾一(四代綾之助)、重太郎・綾華、お軽・駒之助、弥五郎・素八、喜多八・朝重、平右衛門・土佐廣、三味線・三生)その後も三度ほど由良助お軽を春駒師と師弟で務めました。

近年は由良助役で「七段目」を受け継いでまいりました。今回のテレビ収録で現代の女流義太夫の「七段目」を記録として残していただき、感謝しております。(竹本駒之助談)



左・駒之助 右・春駒
昭和四四年十二月三日 本牧亭



令和四年十二月十八日
紀尾井小ホール

協会・正会員の主な動き

令和五年一月～六月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

一月二日(日) 紀尾井小ホール

二月二十日(日) お江戸日本橋亭

三月二日(火・祝) お江戸日本橋亭

四月二十日(木) お江戸日本橋亭

五月七日(日) 紀尾井小ホール

六月二十日(火) お江戸日本橋亭

正会員主催公演(協会後援分)

依頼公演・協力公演(*印)

「じょぎ」*お江戸上野広小路亭

三月一・二日、五月一・二日

「ぎだゆう座」*お江戸上野広小路亭

二月一・二日、四月一・二日、六月一・二日

「第十二回乙女文楽公演」

二月四日(土)・五日(日)

川崎市国際交流センターホール

「第十九回花のように香れ女流義太夫」*

二月五日(日)

「第二十回花のように香れ女流義太夫」*

五月十四日(日) 蔵市立文化ホールくるる

「第七回瑠璃の会」三月四日(土)

国立文楽劇場小ホール

「第十四回素浄瑠璃の会」*

三月十七日(金)・十八日(土)

港区立伝統文化交流館

「第五二回邦楽演奏会」*
三月二十五日(土) 国立劇場小劇場

「ひとみ座乙女文楽公演」*
四月二十九日(土) 川崎市アートセンター

「古民家で娘義太夫 vol.1」
五月四日(木・祝) 横須賀飯島商店

「古民家で娘義太夫 vol.2」
五月十三日(土) 葉山平野邸

「法真寺で義太夫を聴く会 その三」
五月十三日(土) 法真寺本堂

【普及】

義太夫節保存会・義太夫協会主催教室

◆第七十四期義太夫教室卒業発表会
三月十一日(土) スペースFS汐留

◆義太夫一日体験教室
四月二二日(土)

◆第七五期義太夫教室
〔入門コース〕五月〜七月(各土曜)

豊川稲荷文化会館

【運営】

◆令和四年度定期総会
六月三十日(金) ビジョンセンター日本橋別館

【放送・放映】

◆NHK FMラジオ「きき初め邦楽特選」
一月二日(月) 『壇浦兜軍記』 琴責の段

浄瑠璃・竹本駒之助 三味線・鶴澤津賀寿

◆NHK Eテレ「新・にっぽんの芸能」
二月十七日(金) 『女流義太夫の魅力』

『仮名手本忠臣蔵』七段目 一力茶屋の段

浄瑠璃・竹本駒之助・竹本綾之助・竹本越孝

三味線・鶴澤津賀寿 細・鶴澤津賀榮・鶴
澤弥々

◆NHK FMラジオ「邦楽のひととき」
三月八日(水) 『新版歌祭文』 野崎村の段

浄瑠璃・竹本越孝 三味線・鶴澤津賀花
高音・鶴澤弥々

六月十九日(月) 『伽羅先代萩』 御殿の段

◆NHK FMラジオ「邦楽百番」
五月三十一日(水)

『音屋道満大内鑑』 葛の葉子別れの段

浄瑠璃・竹本駒之助 三味線・鶴澤津賀寿

【協会・正会員の今後の動き】

令和五年七月〜十二月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

七月十七日(月・祝) 紀尾井小ホール

八月二十日(日) お江戸日本橋亭

九月二十日(水) お江戸日本橋亭

十月十三日(金) お江戸日本橋亭

十一月二十日(月) お江戸日本橋亭

十二月十七日(日) 紀尾井小ホール

正会員主催公演(協会後援分)

依頼公演・協力公演(*印)

「じよぎ」* お江戸上野広小路亭

七月一・二日、九月一・二日、

十一月一日・二日

「ぎだゆう座」* お江戸上野広小路亭

八月一・二日、

十月一・二日、十二月一・二日
「阿波路会」七月十七日(月)

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
「第十九回竹本越孝の会」

八月二六日(土) 紀尾井小ホール
「第二回花の会」九月九日(土)

日本橋公会堂

「第十四回竹本土佐恵の会」
九月二三日(土) 内幸町ホール

「女流義太夫 涙と笑い(再)」
〜一谷嫩軍記より〜

十月八日(日) 浅草公会堂第二会議室

【普及】

◆義太夫一日体験教室 八月六日(日)

芸能花伝舎

◆第七五期義太夫教室

〔実践コース〕九月〜(各土曜)

豊川稲荷文化会館

【寄付・寄贈】

左記の方々よりご寄付を頂戴いたしました。
誠に有難うございました。
竹本駒之助／竹本越若

〈お願い〉「大日本素義会」関係の資料を調査していま
す。手放されたり廃棄される御予定がございましたら、
義太夫協会までご相談ください。(鶴澤三寿々)

会報編集委員／竹本佳之助・鶴澤賀寿

鶴澤津賀花・竹本越里

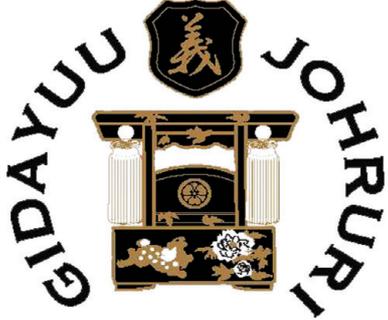
印刷／京成社

一九六三年発足

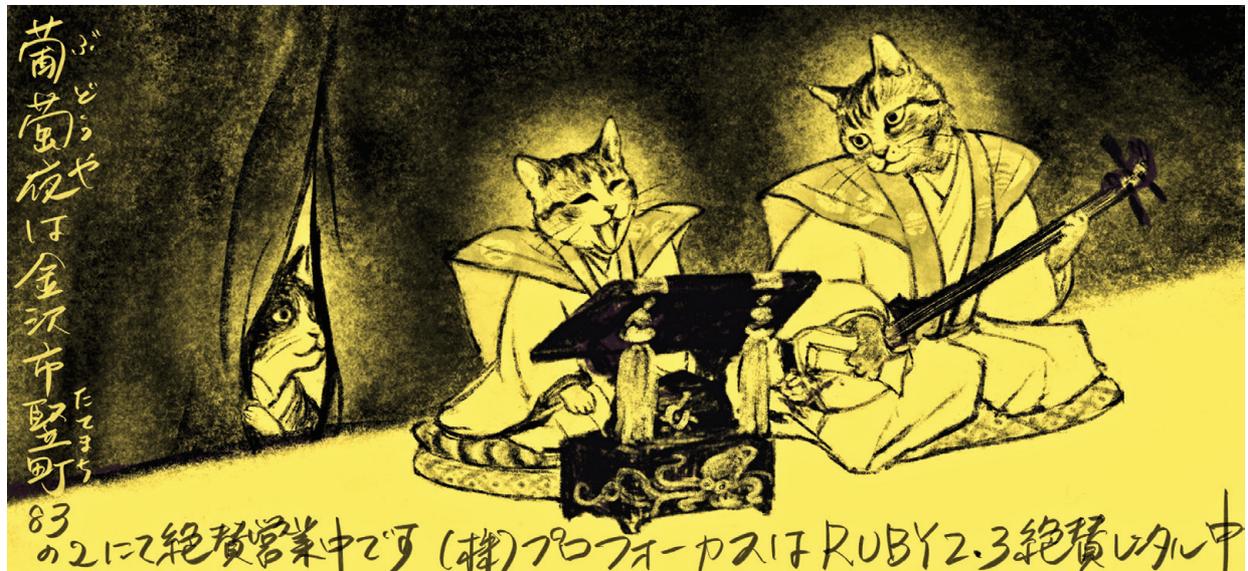
GIDAYUU JOHRURI

日本素義会

まさか「継続は力なり」。
これからも日本素義会を
よろしくお願いいたします。
第百十九回日本素義会、令和五年秋開催予定。



昭和、平成、令和と
素義の先輩諸氏、そして
女流義太夫のみなさまの
熱い思いに支えられてきました。



紋付 肩衣 袴 一式承ります

すいこう苑

コバヤシ

〒343-0044
 埼玉県越谷市大泊249
 TEL 080-1155-3942
 FAX 048-975-2179
 MAIL m-24-kobayashi-718@docomo.ne.jp

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、
制作修理 その他、各流三味線及び付属品
の御注文承ります。

きむら

〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
 TEL/FAX 03-3466-2156
 P.H.S 070-5457-5687